

水稻の紋枯病対策

令和7年8月

大分県東部振興局 生産流通部 集落営農・水田畑地化班

紋枯病

今年の発生はやや多い傾向にあるため注意が必要です

紋枯病は7～9月に高温で降雨量・降雨日数が多いと発生が多くなります。イネの上部に病斑が進展するほど減収に繋がりますのでご注意ください。一度多発した圃場では次作も発生しやすい傾向があるため、特に注意してください。

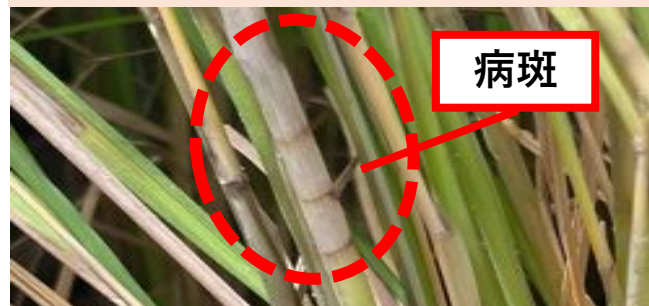
※大分県東部管内ではR6にウンカの坪枯れに似た枯れ方が発生しました。(右写真)



発生しやすい条件

- 高温多湿条件
- 多肥や密植などによる過繁茂

発生は畦畔際ほど多い傾向にありますが、水田内部でも確認されることもあります。



防除のポイント

★紋枯病要防除水準

調査時期	調査方法	要防除水準	防除時期	備考
穂ばらみ期	見取り調査	病斑確認	即時	最低1回散布

★農薬例

農薬名	使用量	使用時期	使用方法
モンガリット粒剤	3～4kg/10a	収穫30日前まで (使用適期:出穂2～3週間前)	湛水散布
ノンブラストレバリダ粉剤DL (いもち病、カメムシ類、ウンカ類等についても適用があります)	3～4kg/10a	収穫14日前まで	散布
モンカットフロアブル	使用方法に 応じてください	収穫14日前まで	散布 (無人航空機登録あり)

※粒剤は溶出に時間がかかるため出穂前に使用してください

！生育後期における病斑の上位進展を抑えることが重要です！

👉 紋枯病の生活環

近年、紋枯病の発生が増えていませんか？

- 多い場合は2～3割減収します -



イラスト:紋枯病の生活環©大分県農業研究部水田農業グループ

イネ紋枯病は感染したイネの病斑に形成された菌核が田面に落下して、次の年の感染源となります。

最初は、昨年までに作られて越冬した菌核が田んぼの水面に浮いて、移植した水稻苗に付着します。その後、条件が整えば水稻に感染し、数日後には病斑・菌核をつくります。菌糸が伸びて隣の株へと感染して発病株が増加します(水平伸展)。この時の気温は30度前後が適しているとされています。その後は株の上の方にも病斑が広がり(垂直伸展)、激しく発病すると収量・品質の低下・倒伏につながります。